

令和3年度 第1回宇陀市総合教育会議 議事録

開催日時：令和3年8月6日（金） 10時00分～11時30分	
開催場所：宇陀市役所3階 庁議室	
構成員出席者	金剛一智宇陀市長 田淵泰央教育長 巽礼子教育委員 吉川壽一教育委員 峯畑忠郎教育委員 山本眞二教育委員
説明者	古谷教育委員会事務局長 萩岡教育総務課長 太田教育総務課主幹 鈴木総合政策課長 垣内教育総務課主幹 小松原指導主事 柳井指導主事
協議事項	宇陀市学校の適正化に関する基本的な考え方について
議事（発言内容等）	
市長	<p>皆様、おはようございます。どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>令和3年度最初の総合教育会議の内容は、宇陀市立学校の適正化に関する基本的な考え方についてです。大変大きなテーマだと思っております。学校の適正化については、県内の他の11市のうち7市が協議する組織を立ち上げていると聞いていますので、どこも同じような課題を抱えておられるのかなと思っております。宇陀市では、平成31年度から宇陀市学校規模適正化検討委員会を立ち上げまして、今年3月に答申を得て、令和3年度から新しく推進委員会を立ち上げ、具体的に検討していく予定です。</p> <p>本日は限られた時間ではございますが、委員の皆様のお忌憚のないご意見をいただきますことをお願いして、冒頭の挨拶とさせていただきます。</p> <p>それでは早速ではございますが、本日の協議事項であります「宇陀市学校の適正化に関する基本的な考え方について」事務局から説明をお願いします。</p>
垣内主幹 巽委員	<p>宇陀市学校の適正化に関する基本的な考え方 ①これまでの経緯についての説明</p> <p>宇陀市学校の適正化に関する説明会をそれぞれの地域で開催されたと思うのですが、その説明会の中で何か反応や、ご意見などがありましたか。</p>
垣内主幹	<p>説明会につきましては、昨年度、各地域1回ずつということで4回予定をしていましたが、参加者の希望が少なく、結局、8月と10月の2回開催させていただきました。</p> <p>その中で、意見として多かったのは、地域の学校を残して欲しいというような意見とともに、例えば、子供が減ることが前提でこの話がされているけども、まちづくりと関連づけて、他の部局と一緒に考えて欲しいというようなご意見がございました。</p> <p>あとは、参加者が少なかったというところを踏まえて、出前トークという形で、幼稚園等を通じて、こちらの方から説明に行かせていただきますというようなシステムを作りました。小さなお子さんをお持ちの保護者の方々は、忙しく説明会に来ていただくことが難しいと思います。その中で、情報を教えてほしい、広めてほしいといった声も聞かれましたので、市としても、保護者の方々が集まる場所、A園とかそういったところに向いていって説明をする出前トークというシステムを作ったのですが、お忙しいところもあつてか、残念ながら今のところはその希望はございません。</p>
市長	<p>なかなか説明会をしても集まっていけない中で、出前トークという良い取り組みだと思ふので、待っているのではなく押しかけトークみたいな形で開催してはどうでしょうか。就学前のお子さんをお持ちの親御さんのご意見を、生でお聞きするというのは、とても大事なことだと思いますので。</p>
吉川委員	<p>私も同じような考えです。意見を徴収するというのはなかなか難しいのではないかなと。例えば、各自治会の集会時に時間を取っていただいて、どんな意見があるか聞かれて、そ</p>

垣内主幹 市長	<p>れを参考した方が、この学校規模適正化を考える中で参考になると思います。地域に学校がなくなったら、過疎化の拍車がかかってくるということも考えられるのではないかと。宇陀市学校の適正化に関する基本的な考え方 ②適正化の基本的な考え方についての説明ありがとうございました。委員の皆様にはぜひご忌憚のない意見を、お伺いしたいと思います。私の今の思いですが、一つは4地域に、それぞれ学校があって欲しいなという思いがあります。市長の立場で言うのがいいのかよくわかりませんが、やっぱり、〇〇小学校卒業したんやとかですね、この年になってきますとやっぱりそれが自分のなんかアイデンティティーみたいなですね。それと、もう一つ将来のまちづくりで学校を考えたらいいという意見もあったと思いますが、例えば、新たにニュータウンを作って子供さんを増やすというのは、すごく無責任だという気もしています。子供さんが育ちやすい環境というのは宇陀市でしっかり、我々の責任で作っていかうとは思っていますが、子供を増やすことはそんな簡単ではないだろうと思っております。そんな中で、例えば、天理市さんや奈良市さんなどは、校区を外して自由に通える学校を作っておられるというのも聞いております。出来ないかもしれませんが、宇陀市は鉄道が通っているのが強みですから、他の市からでも、ここの学校で勉強したい、宇陀市で勉強したいという子供さんを受け入れられればいいいいと思ったりします。それともう一つは、やっぱりギガスクールです。今、一生懸命力入れている中で、住んでいる地域とか関係なしに同じ教育が受けられ、今まで以上にいろんな教育の質を上げられると私は理解しています。</p> <p>そういうギガスクールと絡めていくという説明が少なかったように感じましたので、また、今後いろんなところで議論していただけたらと思います。</p>
巽委員	<p>資料のところで、少し気になるところ何点かあります。まず1点目は、「統廃合」という言葉ですが、文科省の文言も「学校統合による魅力ある学校づくり」というふうに謳っていますので、「学校統合」でいいと思います。それから、それぞれ統合により適正な規模を維持する場合と、小規模校の特色を生かして学校を存続させる場合と、それぞれ書いていただいておりますが、この中のメリットデメリットなどの意見は、検討委員会かアンケートの中で出た意見なのか、事務局の方がまとめていただいた意見なのかどっちなのかなと。アンケートとか、検討委員会で出た意見であれば、そのままの意見としていいのですが、事務局でまとめたのであれば、資料の提示の仕方として、メリットデメリットの書き方について気をつけないといけないと思いました。</p>
吉川委員	<p>適正化について、大人の考え方以外に子供にアンケートは取らないのですか。子供たちの意見として、小規模校がいいのか大勢で勉強するのがいいのか、それも一つ適正化を考えるのに必要ではないかなと思っています。あとは、地域に学校がなくなったら、過疎化が激しくなっていくのではないかと思います。みんな学校に近いところに行ってしまうと、村への愛着が全然わいてこないのかなと。それでは、ますます子供の理想する環境づくりができるのかなあと心配しております。本当に難しいもので、何が正解かが出てこないのは当然ですし、子供のこと考えて一長一短ではいけないと思うのですが、適正化に取り組んでいる市との意見交換会などで情報を聞き、一つの目安というか参考にすればいいのではと思います。</p>
市長	<p>1点だけ、先ほど各地域に小学校があって、自分はその学校の卒業生だという思いを持つのではとお伝えしたのですが、一方で、市長として、いつまでも4地域というところも問題かなとも思っています。市長としても、正解がなかなか見つからない中で悩んでいるところも正直あります。</p>
垣内主幹	<p>では、先ほどの巽委員と吉川委員のご意見について事務局お願いします。</p> <p>まず、巽委員のご意見につきまして、このメリットデメリットにつきましては、最初にお示</p>

しさせていただきました国の手引きを参考にさせていただいております、検討委員会の中で出たというものではございません。大変、ありがたいご意見をいただきましたので、推進委員会の中でも委員さんに提出しなければいけませんので、参考にさせていただきます。例えば、小規模校の特色を生かした学校を存続させる場合のデメリットとかも、小規模だから社会性やコミュニケーション能力が身につかないのかということはないと思いますし、市長もおっしゃいましたように、ギガスクールに力を入れていますし、県でも僻地の学校で、パソコンを繋いで共同学習などの授業も行っておりますので、今後、子供たちの生活にギガが入ってくる中で、そういったデメリットも解消できると思いますし、このメリットデメリットというのも環境の変化によって変わってくると思いますので、参考にさせていただきます。

それから、吉川委員のご意見につきまして、子供たちにアンケートを実施することも検討させていただきます。ただ、このスケジュールを見ていただいてもわかりますように、今までの検討委員会もそうですが、今後6年かけてというところで、6年後のことを自分ごととして、考えにくいというところもありますので、そういうところも、自分ごととして、市民の皆様にご覧いただけるような工夫をしていかなければいけないと思っております。それと、地域の学校で、例えば複式学級ができるかもしれないとなると、大きな学校で学ばせたいからと、小規模の地域から引っ越すというようなことがあればいけません。小規模だからと言って、子供の学びの環境として悪いとは一概に言えませんので、その辺も説明しながら、自分の子供を学習させる環境としてベストなのはどういうところなのかなというのをしっかりと議論して、今後のあり方を考えていかなければいけないと考えております。

山本委員

このメリットデメリットについて、どこかで見た文章だと思っておりましたが、今聞かせていただいて国の手引きを引用されていたことがわかりました。

それから、子供からすれば、大規模、小規模はあまり気にしてないのではないかなと。親や周りは、子供の社会性を考えると思うのですが、実際に通っている子供にしたら、少ないクラスであっても大きなクラスでたくさん子供がいても、友達に限られているのではないかと。やはり、子供が多ければ、たくさんの意見があって、たくさんの考え方が中に芽生えるのではないかなというふうに思いますが、実際に子供を見ていましたら、そんなに子供の世界は広くないというふうに私は思っています。ですから、統廃合に関して、大人が思うほど子供はあまり考えてないのでは。逆に、今一緒に勉強している子と離れ離れになるとか、そういったことの方が子供にとっては大きな関心事じゃないかなというふうに思います。それから、例えば高校だと、自分で自分の特色のある学校へ選んでいきますよね。同じように、小学校中学校でそれが可能ならば、そういう考え方もありかなというふうに思いました。僕が通っていた学校は、統合されて今はないです。そう考えたときに、やっぱり自分の母校が地元にあった方が、地元に対する気持ちを考えると、子供にとってはいいのではないかと思います。

峯畑委員

現状や、児童生徒数が減っていく状況を知らせていかなければ、話が進まないのですが、心配するのは、数字を実際に見て本当に出ていく人がでてくるのではないかと。いろいろな層の人たちに、提示をして知ってもらわなければいけないのですが、提示の仕方を考えていかなければならないというふうに思っています。それから、各学校の良い点、誇れることなどを合わせて掲示したいですね。プログラミング教育も、早くから取り組んでくれています、今はもう全国一般的に同じようなレベルじゃないですかね。学校現場で、みんなが懂れるような教育内容に取り組むのはなかなか難しいことと思いますが、今こそ、それを打ち出すチャンスじゃないかなと思っています。そのためには人材も必要ですが、

特色ある学校を早急につくり出さないといけないと思います。資料に「適正化による特色ある教育内容例」を示してもらったのですが、紙面ではこういう表現の仕方しかないと思いますが、適正化したら進むのかと思うのです。例えば、「郷土学習の充実」は適正化したから進むのかなど。本当は今でも進んでいないといけないのです。せっかく地域にそういう教材がありながら、子供たちの力をつけるところにまだ結びついていないのかと。何かそこに、我々が探していかなければならないものがあるような気がしています。

特色ある学校づくりの一例としては資料にあるように「宇陀高校との連携」があります。これは本当にチャンスだと思います。連携できる場所は連携し、助けてもらうところは助けてもらって、宇陀市はこんな教育ができます、将来こういう展望が持てますよっていうことを、示せるチャンスじゃないかなと思います。それに付け加えてなのですが、宇陀高校の進展によっては、海外からのインバウンドの可能性もありますよね。留学生、入学生が増えたらこれもチャンスだと思います。外国語教育を、否応なしに進めなければならない環境を周りで作り出していくと、子供たちはもっと伸びていくと思うのです。今が大事な時期で、ここ数年がほんとに正念場だと思っています。

それから、システム上の問題もあるのですが、例えば4地域の1地域で、小中一貫校にして、あとの地域は、通常通りの組織でやることは可能なのでしょうか。特色ある学校を作って、校区の枠を外していける方法があるのか調べていかなければならないと思っています。それから、スポーツのこともあると思います。宇陀市の部活動は子供たちにとって魅力があると思うのです。しかし、市外からだ住所を移さなければならぬのでハードルが高いですね。それをもっとフランクにできるのであればいいと、そういうことを打ち出していけないかなと。そのために我々はどのようなバックアップができるのかということも、私自身の今の課題かなというふうに思っています。

また、児童生徒を呼び込むこととして、へき地の方では山村留学というような形で取り組みがされているところもありますので、もしそれに類するようなことができるのであれば、受け皿として、どこかに設置することができないかと考えています。

教育長

今いただいた意見の中で、校区を跨いでというのは、同じ市内であれば小規模校特認校制度というのがあります。そのためには、どういう特色を出すのが必要となってきます。実際に小規模校特認校制度を使っている他府県の学校が結構ありますので、そういう資料も集めていますが、例えば市内の学校どうして取り合いになってしまわないのかなと思いつながら、特色があればいいのかと。その場合、校区を跨いででも行きたい学校だということを、どうアピールしていくのが大事になっていくと思っています。

もう一つは、峯畑委員からのご意見があったように、他市や他県から移住してでも来たいというような特色を出すのにはどうしたらいいのか考えていきたいと思っています。

特に自然が豊かですので、宇陀市ではこんなことが学べるから都会から移住してでも学びたいと思ってもらえるように、これをどうどういうふうにご利用していくのか。学習に関しては、都会であろうが宇陀であろうが同じ内容ができますし、スクールギガの技術を使えば、いろんなことが可能になってくると思うので将来に向けて考えていく必要があると思っています。また、校長先生方には、今の学校を残すために校長としてどう考えていくか、5年後を見据えて、自身だけでなく次へ継承していかなければならないという話もしています。

また、ギガをどう使っていくのか。例えば、壁全体をスクリーンにして、違う学校の教室を映せばよその学校のクラスが映ります。例えばこのクラスが10人であっても、向こうが10人であれば20人のクラスができます。そうして、1人の先生が授業をしていけば、お互いに顔を見ながら授業ができるので、少人数ということも乗り越えることができま

す。ただ、学校同士のスケジュールもあるので全部とはいかないですが、そういう体験もできます。ギガをどのように利用していくのか考えていくことが、特色化にもなりますし小規模校としてのデメリットをなくすことにも役立つのではないかと思います。

そうことも含めて、やはり大事なのは、学校を残す方法を、他の者が考えるのではなくて、その学校の先生であったり、地域の人であったり、それから子供たちが、自分たちの学校をどう残していこう、そのためにはどうしていけばいいのかを考えていくことが大事なことはないかと思います。例えば、こちらから学校を残しましょうと言ってもやる気がないとなかなかできませんので、やっぱりみんな考えて、こんなふうにして残していこうこんなふうにしていったら、もっと良くなっていくのではないかっていうのを、先ほど事務局からも言いましたが、みんな考えていくっていうことが大事なのだと思っています。そのためにも、各学校がどんな特色を出していくのか。最近、文部科学省ホームページに菟田野小学校のプログラミング学習がでていました。結構、評価が高いのです。それをもっとアピールしていかないといけないと思います。

宇陀高校との連携については、学校の生徒とか教員にどう協力してもらおうのかっていうのを、地域の学校なので考えていきたいと思っています。生徒は、ボランティアなどに来てくれますし、教員は教えに来るとか、お互いの兼務でやりとりするとかっていうことも、出来るのではないかと思いますので、この機会にしっかりと考えていくことが大事になってくると思っています。

市長

ありがとうございました。

先ほど高校のインバウンドというお話がありましたが、今も第1期の外国の生徒さんが10名ほど入られています。今後、それが広がっていくような話がありますか。

教育長

今は、専攻科で20人のうち10人の生徒が、タイ、フィリピン、中国から来ています。来年も、10人くらいが来てくれる予定です。令和5年になれば、大宇陀に専攻科の校舎が完成しますので移ります。今は定員が20名ですが、1学年52人に定員が増えます。その時に、外国人を何人受け入れていくのかはこれから考えていくところです。おそらく、15名か20名程度かと思いますが、毎年、10名以上は必ずやってきます。宇陀市に住むのはもっと多いです。おそらく、今でも60名から80名ぐらいの方が住んでいます。毎年60名程度は宇陀市に来て、榛原駅を中心に住まれると思います。高校の先生は、その子たちも最終的には宇陀市に残って欲しいと思っています。ここで就職してもらって、ここで家庭を持ってもらいたいと思っているので、地元の文化や、いろんなことを授業の中には入れています。特に、高齢者との関わりなどを中心に行っているんで、どんどん残っていくようなもの、それから、地元の方に外国人の方を知ってもらえるような行事などを増やしていくことを考えたり、いろんな地元の行事に参加をしていくというようなことも考えているところです。なので、小学校や中学校でも交流するということがすごく大事なことだと思っています。彼らはすごく勉強熱心で、授業中に寝るなんてことはありえないし、勉強しないということはありませんので、日本人の子が寝ていたら起こすぐらいです。彼らも出来るだけ打ち解けていきたいという気持ちがすごくあるので、その子たちとも上手くやっていきたいと思うのと、それからギガスクールに関しては、情報化、科学科を上手く利用できるのかなど。それから、介護とかに関しても専門的にやっているんで、中学生とかに興味を持ってもらって、地元の子供たちが通う学校にしていきたいと思っています。

吉川委員

平成27年に出た文科省の手引きでは、子供の人数が少なくなったら統合して、文科省の35人に近づけていこうというのが、この施策に現れているのではないかと思います。この手引きでは、小さい学校はなくしていこうということなので、我々はそれを当然わかりながら、残す方法は何かと考えたとき、結局、人口が増えない、子供も増えないとなると、

市長	<p>呼び寄せる方法しかないのではと。その一環として特色のある学校を生かして、その広報の仕方を検討していかなければならないと思います。宇陀市の中で広報をしていますが、対象者が市民だけです。宇陀市以外の市町村の方に、特色ある学校を知ってもらう方法を考えていくことも一つの検討方法ではないのかと思っています。</p> <p>今日は、福祉、国際、地域の拠点など、なかなか示唆に富んだキーワードをたくさんいただきました。よそにはないけど宇陀にはある、外国の留学生も他の市町にもたくさんおられますが、うちは宇陀高校があって、外国の方と国際交流をするのはわかりやすい気がします。それでは、事務局お願いします。</p>
垣内主幹	<p>すいません。個人的な意見になるかもしれませんが、これからの学校づくりというところでは、新しい学習指導要領にありますように「地域に開かれた教育課程」というところでは、学校がより良い学校教育を通して社会全体を良くするという理念があるのですが、地域の方にも、自分たちの学校を作るんだと参画していただくとともに、子供が学校で学んでいることは地域を良くすることに繋がっている、自分たちの将来とか、自分たちの身の回りの生活を良くすることに繋がっていくんだというようなことが実感できるような、地域との繋がりや連携した教育を進めていくことが大事だと思っています。やはり、その地域や学校に対して保護者も愛着があれば、この学校で最後まで卒業させようという思いを持っていただけたらと思います。どこの学校でも一緒だというような感じであれば、何かのきっかけで、他の学校に移られたりすることもあるのではないのでしょうか。それと、子供たちも地域とともに学ぶということが、将来的にまた地域に帰ってきてくれるというか、地域で活躍する人材として育ててくれるのではないのかなと思いますので、そういうところを、私個人としては大事にしていきたいなと思っています。</p> <p>例えば、私がまた現場に戻ることがあるならば、子供が学校で学んだことを「うだチャン」で発表したり、その地域の人に見てもらったり、地域の課題について子供たちが解決について学んだことを、地域に発信するみたいなことをやってみたいと思っています。</p> <p>そういった取り組みが、これから求められていくと思います。</p>
市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>先ほど山本委員の方からご意見がありましたが、子供の世界という視点について、我々大人の世界の理屈でいろいろ話していますが、友達の数であるとか、子供の世界はそんなに広くない、一方で広いのでしょうか。山本委員どうでしょうか。</p>
山本委員	<p>うちの子供を見ていましたら、やっぱり出てくる友達の名前は大体固定なんですね。</p> <p>親からすると、いろんな子供といろんな触れ合いして、いろんな考え方とかを持って欲しいと思いますが、子供って、そこまで親が思うほど考えてないところもあるし、また逆に親が思う以上に考えているところもあるのかなと。多様な意見に触れる機会が多くなるというメリットもあるのですが、小さい時はそんなに周りに反応することはないのかなと私は思いましたので。人間形成の上でいろんな人と触れ合うことは絶対大事だと思うのですが、そこだけをメリットかデメリットかと考えたときに、どうなのかなと思いましたので発言させていただきました。</p>
市長	<p>ありがとうございます。ほかに何かご意見があればいただけたらと思います。</p> <p>また、定例教育委員会の中でもいろんな意見をいただければと思います。それを、推進委員会の方へも反映していけたらいいのかなと思いますので、事務局よろしくお願いします。</p>
異委員	<p>適正化推進委員会ですが、保護者のメンバー増やしていただくということで、市内全体の資料をもとに話し合いをしていただくのですが、それぞれの学校ごとに、どういう将来的な姿がいいかということをお話し合っていくのかと思います。小学校も中学校もひとまとめではなくて、それぞれの小学校、中学校で将来どうするかという話し合いがされるのであ</p>

れば、推進委員のメンバーも、地域に偏らないようにとか保護者も地域に偏らないようにということが必要だと思います。

やはり、小学校と中学校では保護者の考えや事情が違うようです。特に、中学生の親は子供が少なくなってきたら、友達関係とか部活のなど、割と切実に悩んでおられます。

それから、ある程度地域性もあり、例えば、榛原の市内の小学校と室生の小学校では、生活圏が違いますので、やはり地元で学校が必要だというようなご意見もあると思いますし、また、榛原地域でもまた事情も異なってくると思うので、それぞれの小学校、中学校ごとに理想的な姿のご意見がいただけたらと思います。

それから、今後のスケジュールを表に出して欲しいと思います。令和9年度から新しい姿でスタートができるようにするのであれば、スケジュールをきちっと表に示さないと、意見はなかなかまとまりにくいと思いますので、このスケジュールはすごく大事だと思います。

市長 ありがとうございます。そろそろ予定の時刻ということで、他にご意見がございませんでしょうか。本日は本当に厚い飾らないご意見を賜れたことを、とても嬉しく思っております。それでは、教育長に最後まとめていただきたいと思いますので、よろしく願います。

教育長 失礼します。
適正化の答申を受けて、次は宇陀市の適正化推進委員会ということで、そこでは統合がありきとか、存続ありきとかではなく、ある種ゼロベースで考えていくということが大事だと思っています。ただ、その答申の中にあつたクラス数や通学距離、時間などは、答申を受けての話でするので考えていく必要があるのですが、先ほど異委員のお話もあつたように、考えていく時にはそれぞれの学校について考えていくことが大事になってくると思います。そのためには、こういうことをやるのだということ知ってもらう必要がありますし、それから、各地域、各場所、いろいろな所で話題にしてもらうことが大切だと思います。市長からもあつたように「出前トーク」は必要だと思いますし、その中で吉川委員がおっしゃった、「攻めの出前トーク」みたいなことが必要だと思います。その適正化推進委員会の各委員は、各カテゴリーの代表で例えば、地区の代表であつたりとか、PTAの代表であつたりとか、学校の代表ですので、各カテゴリーのところで話題にして欲しいという話をしていきたいと思っています。それは、地域で何か話をされるときに、学校統合の話題が出て、その時の意見を委員会で出させていただいて、そしたら我々から説明に行かせていただきますというようなことも積極的に行いたいと思いますので、まず話題にして欲しいなというふうに思います。委員の個人的な意見も大事ですが、代表としてカテゴリーの中でこんな意見が多かつたと出してもらうことが委員会としての役割だと、話を聞かせていただいて思いました。ただ、統合するにしても存続するにしても、その後どうしていくか、子供たちにどんな教育をしていくか、学校はどうしていくかということを考えていくことも必要だと思っております。また、子供の考えを聞きたいと思っておりますので、何かの機会に子供たちの意見を聞くような場を作りたいと思っております。それから、子供の世界という話が山本委員からでしたが、子供のネットでの仲間の範囲はものすごく広いと思っています。ただ、実際の範囲というのは多分おっしゃるような狭いのではないかと思います。ただ、大事なのは、ずっとその狭い範囲の中でいて、ポンッと大きな所に出された時に対応していく力をつけようと思えば、やはり大きな集団の中の1人の構成員として、自覚をするということも教えることも大事で、それがやはり大きな学校という意味でもあると思っています。それを、例えば小規模校だったら、どういうふうにそれを克服していくのかということも考えていかないといけないと思います。また、先ほど言わせて

いただいたように小規模校の特任校制度を利用することも可能ですが、やはり学校を残すとなれば、どう残していくのかを地域の人も含めて考えていく必要があるという話も出ていたと思います。最終的には、移住してでも来たい学校ができれば子供も増えていく。そうなれば、これから数値的に減っていくという前提ではなく、それをどう増やしていくかということを考えていくことができると思うので、そのためにも、各学校の特色化を進めるということを、教育委員会としてはやっていかなければならないと思っています。その中で、宇陀高校との連携をどうするのが大切になっていくと思っています。最後に、いろんなニュースで地元に戻る若者が少しずつ増えてつあると出てきています。特に、仕事もリモートワークができるようになって、別に都会にいなくても、自然の豊かな所で生活をしながら仕事をするということがこれから増えていくのであれば、そんな場所を作っていって欲しいと思います。また、これから答申は答申で進めていってもらわないといけないのですが、答申どおりになると、おそらく、2小1中とか、2小2中ぐらいが、一番適正になってくるかと思うのですが、そうではなく宇陀としてどんなことが大事なのかということも含めて考えてくださいという話を、適正化推進委員会の時にしていきたいと思っております。また補足があればお願いしたいと思っております。以上です。

市長

ありがとうございました。最後に教育長の方から、ご意見や補足があればとお話ありましたがよろしいでしょうか。それでは本日の会議を終わらせていただきたいと思います。よろしいでしょうか。では、事務局よろしく申し上げます。

古谷局長

本日はどうもありがとうございました。貴重な意見をいただきまして、今後このスケジュールで進めていく中で、手引きの内容でも、やはり保護者の方々が不安になるところがあるのではないかと思います。その不安を払拭するために、事務局の方でいろんな資料や、他市の状況などを提供していきたいと思っております。また、あわせて市長部局のいろんな課と、まちづくりも含めた学校づくりを、市全体として考えていきたいと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。